

訂正表

第 114-1 回歯科国試全国統一模擬試験の問題及び解説に不備がございました。下記のように訂正下さいますようお願い申し上げます。

A 問題 63 写真集 18 ページ

画像 B

誤



正



写真に不備がありましたため、訂正いたします。問題不備のため全員正解とさせていただきます。

B 問題 8 解説書 120 ページ

選択肢考察 c

誤 全顔面高

↓

正 前顔面高

解説書に誤植がありましたため、訂正いたします。

B 問題 11 解説書 123 ページ、問題集 5 ページ

図ウ

誤 1SD

↓

正 2SD

解説書及び問題集に誤植がありましたため、訂正いたします。採点に変更はございません。

C 問題 20 解説書 235 ページ、巻頭内容一覧

正答

誤 c

↓

正 c、e

選択肢考察

誤 アスパラギン酸は酸性アミノ酸である。

↓

正 アスパラギン酸は脳の神経伝達物質である。

解説書及び正答に不備がございましたので、複数回答として採点いたします。

D 問題 79 解説書 409 ページ

アプローチと考察、ポイントに詳細な解説がございますので、追加情報として掲載いたします。

<アプローチ>

下顎隆起の切除を行うために粘膜骨膜弁を設計する必要がある。この場合の切開線の設計を、粘膜骨膜弁の設計原則から考える。

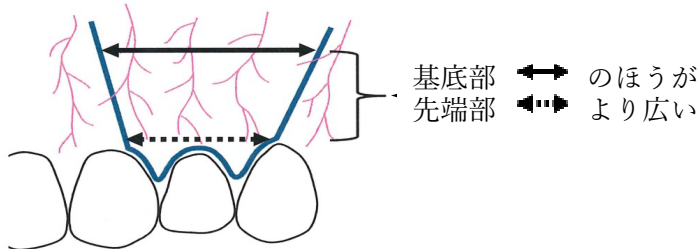
<選択肢考察>

- × a、× b アとイの切開線は一直線に設定されており、粘膜骨膜弁の体裁を備えていない。これらの切開線でも、粘膜の観音開きにより骨を部分的に露出させることは化膿であるが、整形すべき骨（下顎隆起）がほとんど出現せず、十分な術野を確保できない点から不適である。
- × c ウの切開線は一見すると粘膜骨膜弁の体裁を備えているように見えるが、この切開線でも十分な術野が確保できない点、また、部分的に骨の裏打ちのない部位に切開線が設計されていない点から不適である。
- d エの切開線は粘膜骨膜弁の体裁（弁の基底部分は先端部より広い設計となる）を備えており、切開線は骨欠損部を避けて骨の裏打ちのある部位に設計されており、十分な術野が確保できる設計となっていることから、最も適切な切開線である。
- × e オの切開線は骨の裏打ちがない口底粘膜に設計されている点に加えて、この部位には Wharton 管、舌神経、舌下動脈などが走行しており、これらの損傷をまねきかねないことから、非常に危険な切開線である。

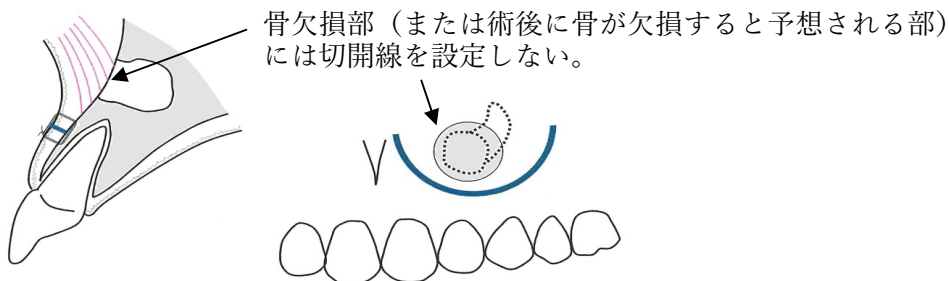
<ポイント>

<粘膜骨膜弁作成時の切開線の要件>

原則①：弁の基底部分は先端部より広く設定する。弁の壊死を防ぐための配慮である。



原則②：切開線は骨欠損部を避けて設定する。



原則③：十分な術野が確保できる設計とする。